

ものづくり一流企業への挑戦

株式会社中村超硬 井上 誠社長のご講演と同社MACセンター見学、懇親会

第7回 ATAC 社長懇話会

第7回ATAC社長懇話会は秋冷の平成17年11月16日(水)午後1時30分、参加者が堺市商工会議所に集合して始まり、バスで(株)中村超硬MACセンターへ移動し、早速井上社長の約1時間のご講演をプロジェクター画面を見ながら拝聴しました。

◆井上 誠社長のご講演



◆創業から現在まで◆

▲熱弁を振る井上社長
当社は、超硬合金を使った町の治工具屋で、ものづくり企業としてまだ二流企業と思っていますが、一流企業をめざしもがき苦しんでいる姿をありのままにお話します。

当社は昭和29年、もともと旋盤職人であった中村繁が創業し、創業当時はミシンの小ねじからスタートしました。創業10年後に当時は非常に特殊な超硬合金の仕事が始まり、お客の注文に合わせて短冊状に切断するだけで商売が成り立つ時代でした。それから5年経って、堺は中小のベアリング産業が集積した場所で、量産化のための治工具類に耐磨耗性が要求されるようになり、当社の超硬合金で作った1μmの精度に仕上げた治具が採用されたのです。これが精密加工のスタートとなりました。昭和50年には鉄と超硬合金との特殊なロウ付け技術を開発しました。更に超仕上げ用の治具を作るために放電加工が必要になり、超硬という特殊な材料を扱って、特殊材料と精密加工の組



▲講演会風景

み合わせという当社の現在の事業基盤はこの頃築かれたのです。お客の分野は大きく広がり、ベアリングから、工作機械・電子部品・工具メーカーへのOEMとさまざまな業界の対磨耗部品に発展していきました。

現在、プリント基板への電子部品の装着機用のノズルは当社が世界のトップシェアを持つ製品です。ここMACセンターはそのノズルを作る一貫設備とノズルを使ったユニットを製造している事業所です。MACとはManufacturing Accessory and Componentすなわち部品と組立の事業を展開しているという意味です。

◆難関克服◆

2年で倍増のペースで売上が31億円まで伸びました。02年MACの第1棟が竣工し、インフラを整備しようとしていた矢先にバブルが崩壊し、たいへんな目にあつたのです。逆に言えばこれが、チャンスであったかなと思います。当時はそれを考える余裕も無く、売上は1/3に落ち、大赤字を出しました。希望退職で160名を100名を切るまでに縮小しました。そこで、もう一度会社作りにチャレンジし、03年は13億強の売上で1億円の利益を出し、翌年は19億円の売上で過去の赤字を完全に消し去ることができました。

この間は現場主義にもう一度目をむけ、社員との対話をして、

どういう会社作りにするのかを見直すきっかけになりました。今年の3月は株式の公開のため8ヶ月の決算で、26億円、06年35期の予測は33億円です。その次38億円、46億円とこのペースで売上を伸ばそうと考えています。

◆企業の強み弱みと未来戦略◆

我々の事業の強みと弱みを整理して、次の戦略を考えていますが、強みは比較的競争相手が少ないこと、シェアが高く、値段が通りやすいこと、汎用性が高い設備が多いので、新製品への対応が容易なことです。

弱みは特定業界・特定顧客の売上比率が高いので、その業界・顧客の需要が落ち込んだら避けようがないのです。しかし供給責任があるので、需要が増えると大幅な設備増強と人員増加を余儀なくされるケースがあります。

今後の展開として、加工技術・素材・人材・製品・サービスに分類して、過去・現在の状況から、未来戦略を考えています。

◆これからの人づくり◆

人づくりのキーワードは感性であり、これまでに培った「人間力」に「感性」を加えることを実行しています。創業者が感性を磨き、手動の粗い送りしかできない機械で研削液の濁りを感じて1ミクロン単位の精度を出していた感性を活かした仕事を若手に伝承するため「ものづくり道場」をつくり、鑄加工でミクロンの精度を作り出す「高度熟練技能」の伝承を実践しています。これは、ものづくりを極めるため全員の感性を磨く経営方針のあらわれです。

◆工場見学

社長のお話に深い感銘を受けた後、工場見学を行いました。工場を見た後だけに、見学もなるほどと感心することが多く、強く印象に残るものでした。MACセンターは2棟あり、1棟は数年前に建設した480坪、新しい1棟は最近竣工して整備中だが、720坪であわせて1200坪の3階立ての工場です。PCD(多結晶ダイヤモンド焼結体)の加工では放電加工、ワイヤーカット機など電気加工機を使った微細穴加工や細かい部品の手作業組立、更には「ものづくり道場」など、他社では見られない貴重な現場を見学することができ、当社ブランド第1号の特殊洗浄機や部品からユニットの組立まで、当社の未来戦略の一端も垣間見ることができ、ITの先端技術を支える中小企業の底力を身に沁みて痛感するとともに頼もしく感じた次第です。



▲MACセンター

◆懇親会

工場見学と質疑応答を終わり、場所を堺商工会議所に移し、井上社長、田植取締役のご出席をいただき立食懇親会を開きました。一同本日の感銘を胸に、見学の余韻を語り合い、井上社長や田植取締役を囲んでの話合いが尽きることなく続く中、名残を惜しんで定刻7時半全ての行事を終了しました。

(田頭・野町)



▲懇親会風景